

化学物質・廃棄物・汚染に関する政府間科学政策パネルの設立と今後について

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）とインベントリータスクフォースの概要と経験

IPCC TFI 共同議長
榎剛史

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）

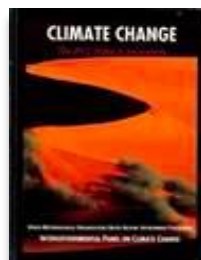
- IPCCは、1988年に世界気象機関(WMO)と国連環境計画(UNEP)によって設立された政府間組織で、世界ほぼすべての国と地域が参加している。
- IPCCの役割は、各国政府の気候変動に関する政策に対し、科学的な基礎をあたえること。
- IPCCが研究を行っているわけではなく、世界中の科学者が協力して、既存の科学的文献を評価・統合して報告書を作成している。
- 政策決定者に科学的根拠を提供する一方で、政策提言は行わない中立的な立場を保っている。
- IPCCが作成する報告書
 - 定期的に作成される評価報告書(Assessment Report)
 - 特定のテーマに焦点を当てた特別報告書(Special Report)
 - 温室効果ガスの排出・吸収量の算定方法に関する方法論報告書(Methodology Report)

IPCC 評価報告書

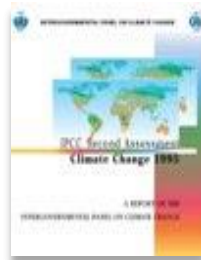
IPCCの評価報告書は、気候変動に対する国際社会の取組みの強化に科学的裏付けを与えてきた



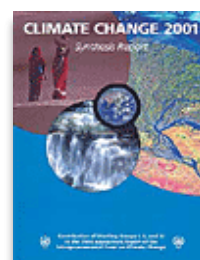
WMOと
UNEPにより
IPCCが設立



第1次評価報告書
UNFCCCの採択
につながった



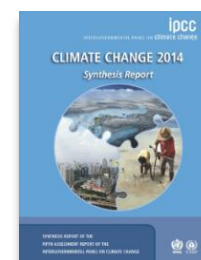
第2次評価報告書
京都議定書の採
択に向けて知見
を提供



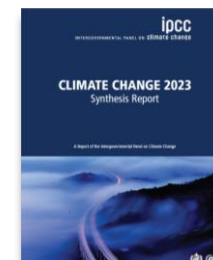
第3次評価報告書
気候変動への適
応の必要性に注
目



第4次評価報告書
気候変動の認知を
高めたことが評価
され、ノーベル平
和賞を受賞



第5次評価報告書
パリ協定（2015）の
採択に向けて知見を
提供



第6次評価報告書
グローバル・ス
トックテイク
（COP28）に対
して知見を提供

1988

1990

1995

2001

2007

2014

2023

IPCCの組織構成



IPCC 総会

IPCC 事務局

IPCC ビューロー(議長団)

執行委員会

第一作業部会
(Working Group I)

自然科学的根拠

技術支援ユニット(TSU)

第二作業部会
(Working Group II)

影響、適応、脆弱性

TSU

第三作業部会
(Working Group III)

気候変動の緩和

TSU

温室効果ガスインベ
ントリタスクフォース
(GHG inventory
Taskforce, TFI)

TSU

執筆者、執筆協力者、査読編集者

IPCCビューローメンバー（議長団）



IPCC議長
Jim Skea
イギリス



IPCC副議長
Ladislaus Chang'a
タンザニア



IPCC副議長
Ramón Pichs-Madruga
キューバ



IPCC副議長
Diana Urge-Vorsatz
ハンガリー

WGI

共同議長

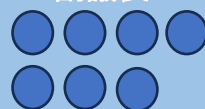


Robert Vautard
フランス



Zhang Xiaoye
中国

副議長



WGII

共同議長

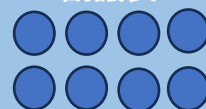


Winston Chow
シンガポール



Bart van den Hurk
オランダ

副議長



WGIII

共同議長

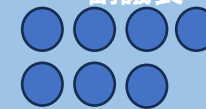


Joy Jacqueline
Pereira
マレーシア



Katherine Calvin
アメリカ

副議長



TFI

共同議長



Mazhar Hayat
パキスタン



榎剛史
日本

TFI ビューローメンバー
12人



スコーピング

政府及びオブザーバー機関から推薦された専門家が、報告書のアウトライン案を作成する



アウトラインの承認

IPCC総会でアウトラインが承認される



執筆者、査読編集者の推薦

政府及びオブザーバー機関が執筆者、査読編集者を推薦する



第2次ドラフトの政府レビュー、専門家レビュー

各国政府及び専門家が第2次ドラフトと政策決定者向け要約(SPM)を査読する



第1次ドラフトの専門家レビュー

執筆者が第1次ドラフトを作成し、専門家による査読が行われる



執筆者、査読者の選定

IPCCビューロー(議長団)が執筆者、査読編集者を選定する



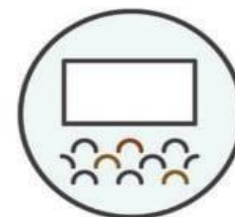
最終ドラフト及びSPMを作成

執筆者は報告書とSPMの最終ドラフトを作成し、各国に送付する



SPMの最終ドラフトを政府が査読

承認に向けて、各国政府がSPMの最終ドラフトを査読する



報告書・SPMの承諾・承認

作業部会・総会がSPMを承認し、報告書を承諾する



報告書の公表

出典: <https://www.ipcc.ch/about/preparingreports/>

第6次評価報告書の執筆者数、文献数等

796

執筆者数

>100,000

評価された科学文献の数

>300,000

査読者によるコメント数

33% 67%
女性 男性

41% 59%
発展途上国 先進国

33人
日本人



インベントリタスクフォース (TFI)

- IPCC TFIの活動目的は
 - 各国が自国からの温室効果ガス排出・吸収量を算定するための算定方法・算定ソフトウェアの開発及び改善
 - IPCC及びUNFCCC締約国における上記算定方法の使用促進
- TFIのTSUは公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)葉山本部に設置されている。
- TFIのTSUは、TFIのビューローの指導のもと、TFIに対して科学的・技術的な支援及び組織運営上の支援を行っている。

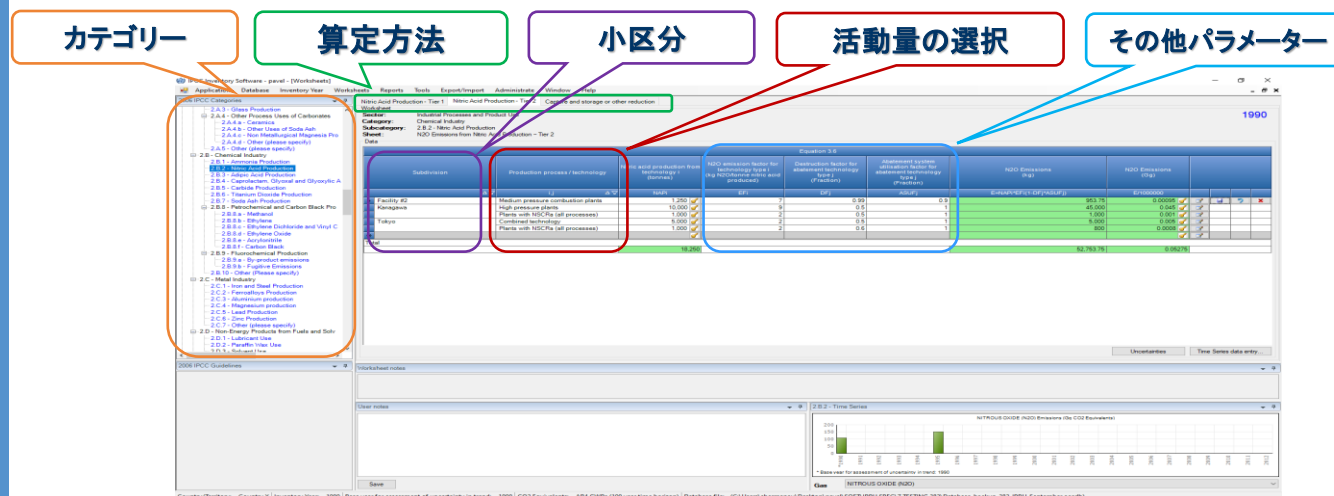


IGES headquarters <https://www.iges.or.jp/en/about/access/headquarters>

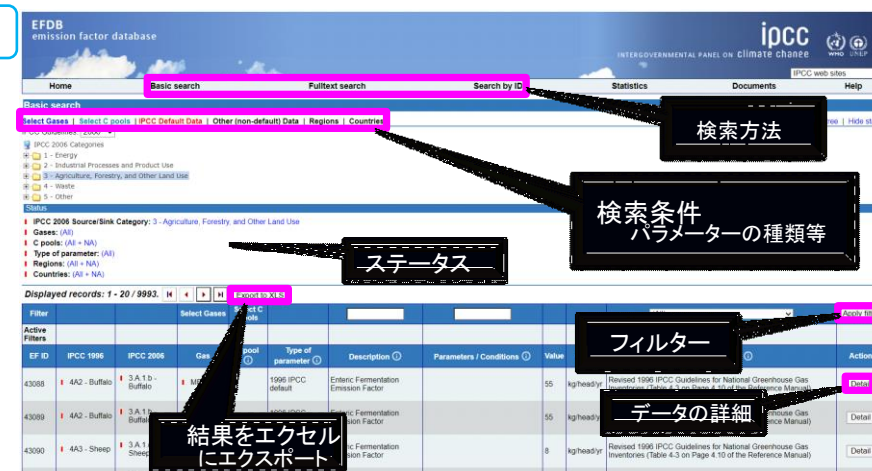


TFIの成果物

- AR7サイクル中に2つの方法論報告書を作成する予定
 - 短寿命気候強制力因子(SLCF)に関する方法論報告書
 - 二酸化炭素除去(CDR)技術・炭素回収利用及び貯留(CCUS)に関する方法論報告書
- インベントリ作成ツール(IPCCインベントリソフトウェア、排出係数データベース等)を開発・改善している。定期的に専門家会合を開催し、ツールの改善等を検討する。



IPCCインベントリソフトウェア



排出係数データベース

IPCCへの関与

- IPCCビューローメンバー（IPCC議長・副議長、作業部会・タスクフォースの共同議長、副議長）としてIPCCを率いる
- 専門家として関与
 - 報告書の執筆者として報告書を作成。査読編集者（Review Editor）として報告書の編集作業をとりまとめる。
 - 論文の執筆、報告書に対するインプット
 - 査読者として報告書に対するコメントを提出
 - （TFI）インベントリ作成ツールに関する専門家会合等に参加、ツールの改善に貢献
 - 専門家の選定には、専門分野、地域・ジェンダー・経験のバランスが考慮される
- なお、執筆者・査読者は、無償で活動している！（ただし、途上国専門家については、IPCCが旅費等を負担）

政府・専門家の連携・サポート

• 政府による連携・サポート

- 関係省庁は互いに連携・協力しながら、IPCC活動に参画する研究者への支援を積極的に行っている
- 関連4省庁(環境省・文部科学省・気象庁・経済産業省)のもとに、「IPCC国内連絡会」を設置。同連絡会は、IPCC活動全般についての進捗状況把握、AR7作成に関する情報の共有化とそれに関する意見交換等を図っている。

• 研究グループ(TFI)

- SLCFインベントリに向けた準備拠点、GHG-SLCFシナジーによるインベントリ高度化、インベントリ研究と実務の連携、情報発信・提言、及び関連する国内・国際活動に係る業務を行っている。

まとめ

- IPCCの評価報告書は、世界中の気候変動対策で参照される資料
- 専門家の関わり方
 - IPCCビューローメンバー
 - 執筆者・査読編集者
 - 査読者
- IPCCの専門家は、強い使命感を持って作成に当たっている
- 政府・所属組織等からの理解・サポートが必要
- IPCCや気候変動に関する最新情報の発信および普及啓発



ご清聴ありがとうございました

STAY IN TOUCH



ipcc.ch



ipcc-sec@wmo.int
ipcc-media@wmo.int

STAY CONNECTED



ipcc_ch



ipcc



@ipcc



ipcc



ipccGeneva

